

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 212 回 「のに族」と「くれない族」～人の振り見て我振り直せ！

2007.7.29

「のに族」と「くれない族」、発展途上国の内戦の話ではない。我々の極、身近な話である。「夫が、私の考えに理解を示してくれない」「妻は、僕が頑張っていることを認めてくれない」「上司が、聞く耳を持ってくれない」「部下が、素直になってくれない」以上のような言葉をいつも言っている人を「くれない族」と呼んでいる。くれない族になると、いつしか他人の言動に依存するようになり、人生を被害者のなストーリーにしてしまう、世の中で一番惨めで不幸なのは「私」、こんな風に思いこむことが得意な連中である。くれない族は至る所に生息する。家庭、会社、組合、商店街、自治会、PTA、消費者、有権者、納税者...場所を選ばず、しぶとく生き抜いている。

自らは何もせず、また、出来ず。従って全て他力本願。うまくいかないのは人のせい、やってくれない、くれないの恨み節...これがくれない族の信条である。

さて「のに族」である。

「せっかくやってあげたのに...」「わざわざ出てきてやったのに...」「俺が声をかけてやったのに...」こんな口癖の人を、密かに「のに族」と言って面白がっている。

概してお節介で、比較的プライドが高く、つまり偉そうで、自己顕示欲が旺盛な、人に恩を売るタイプと言えるかもしれない。そう、あなたの身近にも、思い浮かべる人いるはずである。この「のに族」も、日本国中にはびこってきた。

人に施す気持ちがあるまではいいのだが、どっかで必ず見返りを期待している。期待通りの返礼がなかった場合、「これだけ彼のためにやってあげているのに」と「のに族」に豹変する。やってあげている本人は、「礼が少ない」くらいなもの、でも「のに、のに」と言われる方は溜まったもんじゃなない。最初は本当にありがたいと言う気持ちも、しつこく何回も「のに、のに」と言われ続けるうちに、感謝の念からやがて「怨念」へと変わり、これはもう、横溝正史の世界、趣味の悪いサスペンス・ホラー映画となってしまう。

「のに族」とは、...人の為に奉仕すると言うことは、決して恩にきせない事が前提である事...を忘れてしまった種族である。

人間とは所詮弱いものである。自らを律し、襟を正しつつ毎日無心で努力したとしても、思った通りの人生は歩めない。つつい愚痴が出て、弱音を吐いて、逃げたくなること往々にある。誰かのせいにするのが楽だから、つい、自らも「くれない族」になってしまうかも知れん。あるいは逆に、自分自身意識しないうちに、他人に恩を売ってしまっている言動があるかもしれない。

つまり「くれない族」も「のに族」も実に人間的であると思わざるをえない。自分自身ちょっと気が緩んだだけで、何時、彼ら種族の仲間になってしまうか、油断がならぬものである。自分が不快だと思う事、絶対人にやってはならない、これを守ることにした。

「人の振り見て、我振り直せ」、昔、お袋から教えてもらった諺を、今頃になって、しみじみと思い出している。